

科目名	ロボット応用実習 2							年度	2025
英語科目名	Robot application practical training 2							学期	通年
学科・学年	ロボット科 1 年次	必／選	選 1	時間数	30	単位数	1	種別※	実習
担当教員	山吹、寺澤、石川	教員の実務経験		有	実務経験の職種		機械設計・構造物設計施工(山吹)、電子回路設計エンジニア(寺澤)		
【科目の目的】 ロボット業界で活躍するために必要な工具、材料などの応用技術を実践的に学びます。									
【科目の概要】 ロボット応用実習1をベースとしてロボットやものづくりに関する総合的な実習として、企業連携プロジェクトやロボット競技会へ向けた活動、インターンシップ（企業実習）、展示会見学などを単位認定します。									
【到達目標】 自主的に研究活動行うなど、積極的に取り組む姿勢を習得する。グループで一つのものを作り上げるために必要な、チームワークや計画力などを習得する。									
【授業の注意点】 事前に、活動内容について、担任の許可を得ること。グループでの活動がある場合は、積極的に関わり、協力して作業を行うこと。中途半端に投げださず、最後まで完成させること。レポート提出必須。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	基本工具の名前使い方を理解している	基本工具の名前使い方を理解している	ニッパ、ペンチなど工具を利用できる	ドライバーを区別して使う	ドライバーの区別ができない				
到達目標 B	仕様に適した材料を選定できる	アルミの特性を理解している	アルミ材の加工ができる	アルミ、真鍮の違いを知っている	材料を知らない				
到達目標 C	仕様に適した回路を選定できる	回路図の動作を理解している	回路図をもとに組み立てができる	回路図を起こすことができる	回路を組み立てられない				
到達目標 D	仕様に適した機構を選定できる	機構の動作を理解している	図面をもとに機構を組み立てることができる	基本機構を図面に起こすことができる	機構を考えられない				
到達目標 E	仕様に適したプログラムを選定できる	プログラムを利用して動きを変更できる	動きとプログラムの関連を理解している	動作に必要な動きを理解している	プログラム作成ができない				
【教科書】 情報リテラシーWindows10 / Office 2019対応 F O M出版									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 課題（100%）毎回提出の課題で評価する									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ロボット応用実習 2				年度	2024
英語表記		Robot application practical training 2				学期	通年
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	企画検討	課題を正しく理解する	1	企画の理解	大会等のレギュレーション企画理解	3	
			2		必要な機能動作を検討		
2	基本設計	課題解決にむけ どのような方法で 対応するか検討	1	仕様、動作検討	必要な機能の確認	3	
			2		機構機能の確認		
3	基本解析	課題解決に向け 基本対応を 確認する	1	動作シミュレーション	企画に対応できるか確認	3	
4	材料検討	必要な構造、材料 を検討する	1	製作準備	材料の選択	3	
			2	基本加工	基本構造コア部作成		
5	機構試作	機械的部分の 動作確認	1	仮組み立て	機構機能の動作確認	3	
6	機構確認	仕様を満たすか 調整	1	機構機能確認調整	必要な機能動作ができるか調整	3	
7	電気回路試作	電気回路の検討	1	制御部検討	コントローラーの開発、モータ回路	3	
8	電気回路確認	仕様を満たすか 確認調整	1	動作確認	仕様と比較して問題点の調整	3	
9	組み込み	機構内に 電気回路を組み込む	1	組み込み調整	機構部に回路部を組み込む	3	
10	プログラム作成	モーション作成	1	動作プログラム	動作の確認	3	
					プログラム調整		
11	動作テスト	動作確認	1	動作確認	各モーションの確認	3	
12	修正	修正	1	調整	不具合箇所の調整	3	
13	トライアル	テスト運転	1	テスト動作	長時間動作試験	3	
14	習熟訓練	大会想定訓練	1	デモンストレーション	訓練	3	
15	確認（大会）	発表	1	発表（大会）	発表会	3	
評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他							
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった							
備考 等							